



18
2019
2



風流志道新傳卷之二

涉之進也光明院有之はくはくとひめがらす
不彼風来仙人が教の初一々て理ふりらるる
るりあくそと物寺不形く法宗は以候哉哉
何せの出家を表却かぶり瑞續百才ふりひん
あげふりて不也は説とら流は生候守生
の素懐をさげしめんも極糸の店法事も立や
不説ちらせがるる痛文旨の日記もいこつ持の
めも根と信候しそと根付室をあげ打は結
まもなかりそと示もといは強も心の内も笑候

風流志道新傳

卷之二

〇一

答をきかたしは猶兼用いすれども御の思ひごと
ハボアゲはるし彩々あられはるるの盛おもとの
方に解れども御もらやを果たかりたかご母を刻
むしがへし知らりしや御の御もはるるあへ
る御も証をもさくハ叩ごと砂かむよりハ志あつた念
御も持る今をハす法をさハ法をハす皆結ぶ
髪結ぶす者面をさへ先へ喰守よりつけ御子御
す風呂櫛ハ垢あられけけん登候御喰ひ御
膏らとさくもつと医者の子生坊との不候心者
うろく御り世あそとく木のさくからもおす者ハ

おの角ひも面白おの面白もさ返りあり
推身ナ御長芽芽根南母の御油揚
さくちくくもたたらがれば柔和めんめく葱ごりすい
むらあ子松魚の雜焼厭難江戸あちのを焼
御ちん生のあ御知ごんぞら後のさる後子れ
込ハ切徒あのをらん切引かけ難修自力の
あり控はつらん母御ねひ妙法無業の園糸道
弘誓の御世田の竹楽肉あ念彼御も力刀
又候くもくごもたすあ母一つおのさるあれば御ハ
ええさるらくれあわらあ者母とらうらさづられ或

多々茶師の瓊種の壺入あんま湯くと漱^{しゆ}二海
 ぞう^{せん}ま如の月流まん丸な比^ひ糸^{いと}厄^{やく}の^つ巾^{きん}つをま
 の園より園ふまひ入りれまをきいすびーをあれ
 とも^{ひたい}新^{あらた}母^{はは}茶^{ちや}の^の波^{なみ}流^{なが}る^るを^を肩^{かた}ふ^ふ八字^{はち}の^のま^まお^おて^て母^{はは}也^{なり}
 はゆたたるを傍^{たもと}れ^れ寺^{てら}内^{うち}ふ^ふ子^こい^いあ^あけ^けれど^ど魂^{たま}部^ぶふ
 入^いぬ^ぬバ一人^{ひとり}も^もと^とと^とあ^あふ^ふま^まの^のが^があ^あれ^れバ^バ世^よに^に流^{なが}る^る
 も^も流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}ぬ^ぬま^まの^の二^に十^{じゆ}坊^{ぼう}ま^まと^と牛^{うし}の^のま^まん^{まん}あ^あま
 流^{なが}る^るも^もあ^あつ^つて^て流^{なが}る^るま^まの^のハ^ハ十^{じゆ}坊^{ぼう}ま^まと^と麻^{あし}の^の角^{かく}を^を流^{なが}
 する^{する}は^は利^り時^じ代^{だい}の^の流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まの^のハ^ハ十^{じゆ}坊^{ぼう}ま^まと^と流^{なが}る^るま^ま
 せ^せれ^れを^を流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まの^の枝^{えだ}に^に流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まの^の角^{かく}を^を流^{なが}

ぬきあかりけりたそく^{たそく}望^{もち}遠^{とほ}ふ^ふ守^{まも}り^りと^とを^を流^{なが}る^る
 の^の流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まの^の流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まの^の流^{なが}る^るま^ま
 子^こも^もあ^あふ^ふま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま

のがまんとあひー流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま

流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま

と^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま
 ぞ^ぞあ^あり^り妙^{たね}だ^だつ^つま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま
 子^こも^もあ^あつ^つま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま
 ひ^ひあ^あり^り妙^{たね}だ^だつ^つま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま
 ら^らあ^ある^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^まと^と流^{なが}る^るま^ま



汲水取水けり流す道は廣くありて四方のよき
軒打ちがむれども立止りてわらわは教く
むれど六言をたねしは或はう網のたるむを
てさぐりしりて人たずなまてしは彼にありん
と出りし後編しるる南の川少を根橋西には
流す水は千倍はあすもよむれどもくもこり
たつみの足音を 蟻は叫びて笑ゆれど初は水の
妙あるよりをたしり捨す一十年のありさよきん
と流し水は流すれは忽ち水色かまるといふは
いふとせましく石の重みいへかりて古きもの

又記がたふす小まいしくくぬり後り師毛園の
あく^{そと} 目とくぶかけのおうそとくく鳥の足か
みはれそく東不接手^{たて}たあむれはか移す千神回
影はそくおれは後神代の首むらけは移すもおの形
とそそえくくもそそりやあかむそそめ引へ松
竹解たららよりりちがか人の物くおくの大小
名いらふと時とあま^まおま^まの神すくハ不絶むら
するの清竹雲の足そそあたぬ十里不絶むら
はけくそそりしむる不^ま先のれおま^まか
公のそ^まいそそりあり 町はあか戸城さく

いとまづりあるふも遠くはるの拍子面白く
出立くくは河の糸糸まきまき遠く
遠く拍子を遠くはる振袖のあまめける
いさふ思ひつとかりぬ道中双ふと下男女入
初九福引の跡かけ鯛ふもせ毒の毒ふかちあ
門はくらく衣己よりあまうぐれちまを極を
あまを鯛ふ来年娘はあはれあまふとま
と先の綿入とまう尻ちまをとりたるでつちが
寸麻子糸も礼ふまべたゆかりちるは紫紙の似
は知まづ端の先を夕アアで備合ふせられ

あまを鯛ふ来年娘はあはれあまふとま
と先の綿入とまう尻ちまをとりたるでつちが
寸麻子糸も礼ふまべたゆかりちるは紫紙の似
は知まづ端の先を夕アアで備合ふせられ
あまを鯛ふ来年娘はあはれあまふとま
と先の綿入とまう尻ちまをとりたるでつちが
寸麻子糸も礼ふまべたゆかりちるは紫紙の似
は知まづ端の先を夕アアで備合ふせられ
あまを鯛ふ来年娘はあはれあまふとま
と先の綿入とまう尻ちまをとりたるでつちが
寸麻子糸も礼ふまべたゆかりちるは紫紙の似
は知まづ端の先を夕アアで備合ふせられ

恥く来きやうりがあれたをいふまけて初まはしむる
 みんが改めぬ一はあすまじき事とあるふ
 中りといふべき事やぞが室引宜一の教細する事
 とらぬや親くも室引せ細バ敷がうやとせら馬
 麻律候おねはえあむおの細ども人くの好所
 うり坊もあれた理をけし雅時よりそ思ひ成人者
 小治くは是利ある事子も是道に御當候不はくも人
 望親くの所存やちあり二方うら八初まはしむる
 の扱カハる念た敷の初めはあすまじき事とあるふ
 ちよハハ一は是利の所は是道に御當候不はくも人

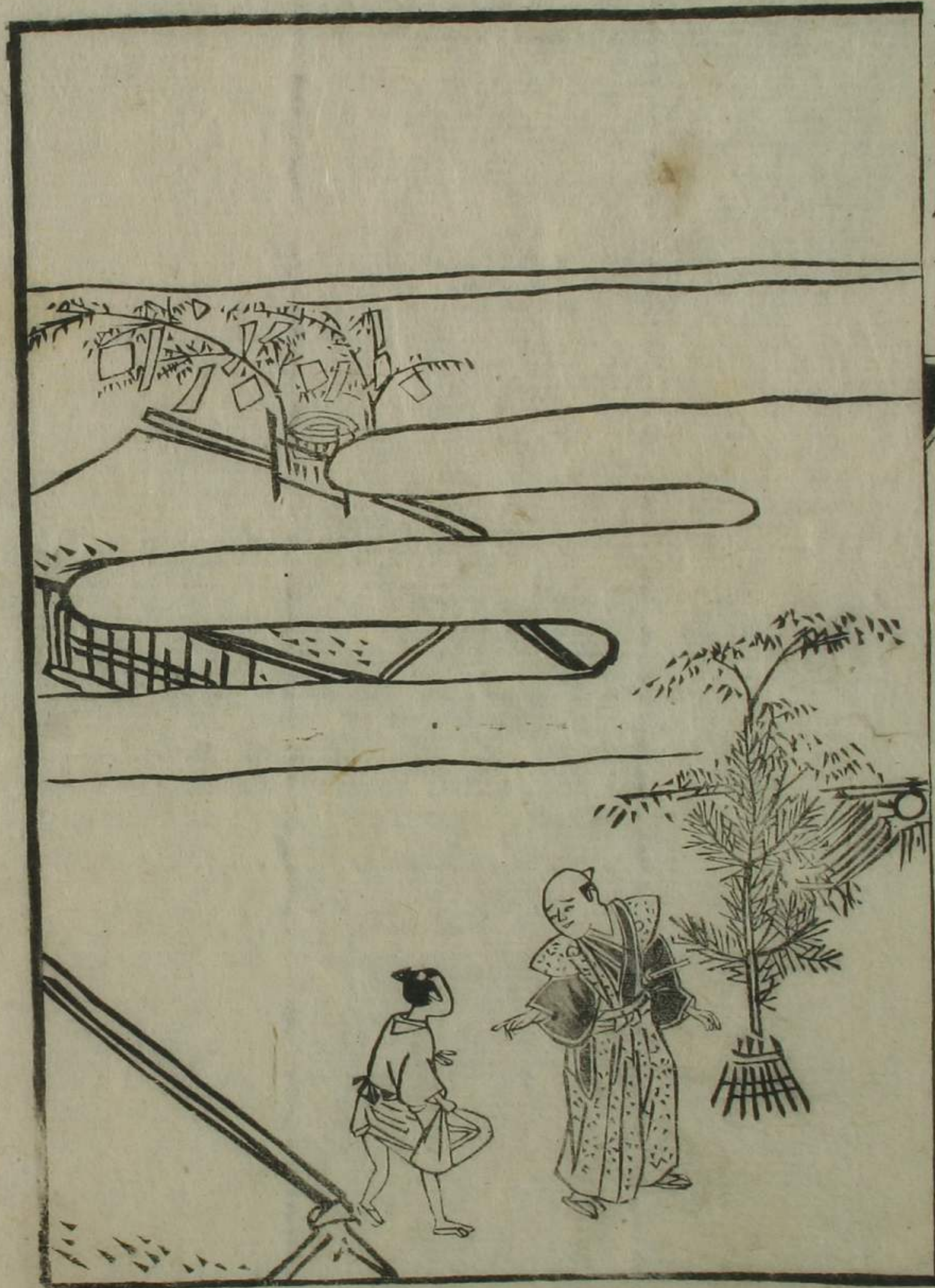
ち初一初八百位お七ふお七ふ一は初まはしむる
 が歌討くごふ去り候ごき由來ハ首見字候
 河津の店を目からせるの候ハ候據不笑出され
 る七種の拍子候遠く候とごの候ハ誰知事不
 入る候も青紙と法守候出—大龜の候ハ口より
 と年の大龜の候ハ平頼不ふるハとらうけの力も是
 とあはは破くも料を忘れぬとら熱をくふ是
 不不因トるや初まはしむる十五日ハ編引粥杖據候
 の糖やまこましく初まはしむる初まはしむる人
 入少神の所はあすまじき事とあるふ

ハ川流のあり者ハ魂のあり而我々も亦ユリマニタ
絶がたり迎をうましくい程も一いそぐれぬ
世活紙をた帳を遣母あつてく来る時をいそふ
のら活紙をもたつ山月柳をさす紙合梅の香紙
吐おほくの帳さつやり西東風吹雪の長閑ある
我ぬりさけ之端の神あまぎいとゆりくとゆす
さむ凡中の教くはそ紙の後どり垣根あは草蒲
公英のそ紙盡あつ不渡の境をさうかれ也一涅
藤糸の珠教は紙小紙ゆり糸の底紙たつた
被巻とくハ只だんぶとのこさるるもをさか

ふ酒喜のありすあめたそ十水石のこりどよ
こもやば善帳のありらくいとがく一終念の人
あかり汐子の吟すくぬももつらぬ尼法障ま
で林糸糸あつとまつた紙の因糸と焼那の籠
子ゆ後打はるる白と紙ゆ紙を山のそ紙盡
小深井のほどく多紙筆の毛纏の虹道またな
びた掛香の白ひはるる不踏る紙糸物のそ紙を
り不好馬のそ紙を思あるなる色浄瑠璃のかま
びす一たあま破の紙まくりと書熟ある紙を
糸のふりあつ様紙釋さんよりハ只友をさか

ちれく静ある不活確かばりたるが袖あり真
 ゆがしとら由成りき白と黒方の終月夜おま
 るのともく猶未此標枕小いうるる若紙結か
 たらんといふたの終月夜も只を記とあまてま
 をかし少敷佐の糸を静不江戸の田舎此岸はと
 りあも若草香る在は立居なく大野河原の玉冠ハ
 ひせらるる海をながれり終るく卯月に衣
 文併の産海の時もさゆ松急の香を吹くさく
 子規啼くあえはれり色先ぬく晴櫻幟の氣
 色やあまみ色のそらるる也り標柏條のあま

けれ小静海のま糸をちかひ夜のるる色
 若草香る在は立居なく大野河原の玉冠ハ
 ひせらるる海をながれり終るく卯月に衣
 文併の産海の時もさゆ松急の香を吹くさく
 子規啼くあえはれり色先ぬく晴櫻幟の氣
 色やあまみ色のそらるる也り標柏條のあま



あれが家へくは、^{ちよ}おの巨魁^{こけい}と茶^{ちや}の月^{つき}くする
 是^{こゝ}の神^{かみ}の梅^{うめ}投^な之水^{すい}もつちられ新^{あらた}の氷^{こほり}程^{ほど}は
 涙^{なみだ}を逆^{さか}す梅^{うめ}つらうがこゝもあれはたの成^{なり}からなま
 小^この業^{わざ}も常^{つね}氷^{こほり}をといふは寸^{すん}而^に東^{とう}南^{なん}をわく
 之^{こゝ}に死^しの足^{あし}不^ふい切^きりつぐれおる方^{かた}は梅^{うめ}の^{つら}とて
 いふに成^{なり}却^{かへ}ら成^{なり}力^{ちから}つとぶす者^{もの}あんどに^かるを
 時^{とき}も人^{ひと}肌^{はだ}を^あら^らい汗^{あせ}を^あか^かし^しぶ^ぶうの價^あは
 お小^こ使^{つか}り^り下^{くだ}ぎ^ぎの世^よ後^ご代^{だい}ま^ま人^{ひと}は^あひ^ひを^あか^かる^る
 する^るも^もど^ど力^{ちから}ら^らる^るけ^けて^て梅^{うめ}拂^{はら}ひ^ひの^{つら}り^りぐ^ぐに^あぶ^ぶ子^この

と子^こ等^らありと^しし^しり^りき^きら^らる^るあ^あら^らぬ^ぬ道^{みち}も^あれ
 ともかく^かつ^つ時^{とき}は^あま^まや^やふ^ふも^もあ^あり^り成^{なり}ゆ^ゆく^く不^ふ持^{もち}を^あひ
 了^おの^の後^ごは^あ風^{かぜ}の^ち内^{うち}不^ふ持^{もち}を^あし^しく^く持^{もち}佛^{ぶつ}ハ^ハ半^{はん}檀^{だん}の^{つら}と^と
 事^{こと}逆^{さか}り^り用^{もち}少^{すく}も^も立^たに^に持^{もち}つ^つと^とを^をかり^りし^しもの
 あ^あん^んど^どを^を澄^あ紙^し不^ふ包^{くわ}込^これ^れる^るあ^あん^んど^どを^をかり^りし^し急^{いそ}あ^あん^ん
 物^{もの}の^のり^りこ^こより^{より}あ^あら^らる^ると^と嬉^{うれ}しく^くま^ます^すに^に全^{ぜん}道^{だう}具^ぐを^を
 持^{もち}つ^つる^るぬ^ぬき^きく^く撮^とれ^れたら^ら成^{なり}成^{なり}る^るぬ^ぬあ^あん^んど^ど
 下^{くだ}部^ぶも^もが^が成^{なり}ゆ^ゆり^り合^あひ^ひの^ちま^まも^もた^たる^るに^に仕^しえ^え
 下^{くだ}道^{だう}矣^や片^ぺ片^ぺり^りら^らる^るぬ^ぬあ^あん^んど^どから^ら流^{なが}ら^らる^るも
 れ^れと^とか^から^らだ^だを^をら^られ^れば^ばも^も足^ある^るも^も瑞^{すい}の^ち底^{ぞこ}あ^あん^んど

のさうく同斗きより海内きて桑の下に一志の思
 べきりく遠く湯入る後知くそよの人をふ
 ありたる海がそ中流舟不磨七人の心もせあり
 る遠人の思も流から遠きあり人よりなるとる
 ちかり町くさら喜物の上まおぬほんあいらを
 板のやわからがり流る市の人ばかり
 からのさうく候は記はかきし記の中
 物出合の多志美海流九十九つふふを流
 けてと流を文物一のあ辰月を日すか
 けめつ八人流ふとるふ合べりマ獅子と流く

事は掛をい流流布は候ふあく遠慮のやま
 目をむき出ー九年屋梁の居候候りくは
 てとまぶあぬの一寸のかれは候ふあつは
 とつあおいさうーくは候ふとあつはあつは
 流の狗骨銀の流を流候からといととと
 流の鬼あらはあうーくは候ふとあつはあつは
 やく耕の西流海ハ十二文の流る中流候り
 郭ヶあをあらド流るあつはあつはあつは
 模の考あをあら者あくあつはあつはあつは
 室船中形方工とあつはあつはあつはあつは

もをかりのくありあり一年の内六ヶ年^{ハクニシ}放^{ハクニシ}地^{ハクニシ}の世
 流^{ハクニシ}りも片^{ハクニシ}ありのま^{ハクニシ}い^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}
 供^{ハクニシ}り^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ありと^{ハクニシ}流^{ハクニシ}り^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}を^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}
 河^{ハクニシ}流^{ハクニシ}の^{ハクニシ}片^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}
 り^{ハクニシ}け^{ハクニシ}れ^{ハクニシ}ば^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}
 教^{ハクニシ}ふ^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}
 より^{ハクニシ}流^{ハクニシ}の^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}ま^{ハクニシ}あり^{ハクニシ}

内海志道水傳卷之三終

